

株式会社レゾナック・ホールディングス 2023年3Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2023年11月9日（木）17:00～18:00

説明者：取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 通期予想から算出すると、4Qの特別損益は338億円の損失となる。主な内容を教えてほしい。

A 事業の減損損失などの構造改革費用を見込んでいることが主要因。

Q 有利子負債は主に円建てか。また、変動金利と固定金利の構成を教えてほしい。

A 有利子負債はほぼ円建て。金利は過半が固定金利となっている。

【半導体・電子材料セグメント】

Q 3Qから4Qの業績変動を概観してほしい。

A 半導体前工程材料・後工程材料は、売上は大きく変動しないものの、新規生産設備稼働等による固定費の増加等により減益を見込む。デバイスソリューションは増収だが、操業度が低水準となることの影響で、利益は概ね横ばいとなる見通し。

【モビリティセグメント】

Q 決算説明資料P16に記載の不採算の「製品×顧客組み合わせ」の値上げ・撤退について、進捗を教えてほしい。

A 記載した48品目は年内に交渉をやり切るよう進めている。交渉の効果が出るまでに時間を要するものもあるが、来年度には一定の効果を刈り取っていく。

【イノベーション材料セグメント】

Q 4Qの業績が3Qから増収減益の見通しなのはなぜか。

A 3Qの利益には過去の原燃料価格高騰分の遡及値上げが含まれており、その一過性要因がなくなることが主要因。

Q 本セグメントの構造改革に関する考え方を教えてほしい。

A ロングテールの製品が相当数残っており、値上げや撤退といった対策を継続して行っていく方針。

【ケミカルセグメント】

Q 2Qから3Q、3Qから4Qの業績変動を概観してほしい。

A 2Qから3Qの比較では、石油化学・化学品が増益となった一方、黒鉛電極は減益となった。

3Qから4Qの比較では、化学品は堅調だが、石油化学は3Qにナフサ価格要因で一時的に利益が出た分の効果剥落があり減益を見込むほか、黒鉛電極は需要低迷や棚卸資産の低価去による簿価の切り下げなどの一時要因もあり、減益を見込み、セグメントとしては増収減益の見通し。

Q 黒鉛電極の地域別動向を教えてほしい。

A 北米は顧客の在庫調整が長引き、数量は引き続き弱含みだが、他地域と比べると比較的堅調。最も競争環境が厳しいのは欧州。アジアは北米と欧州の間というイメージ。

以上

*本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。